



「観光資源としての 地酒の活用推進 —SAKEから観光立国—」



平成26年10月8日
酒サムライコーディネーター平出淑恵
toshie@coopsachi.jp

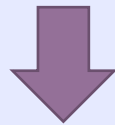


私は、空飛ぶソムリエ第一世代

1983年民営化前のJALに新卒で入社

新人教育は

「会社は半民半官だが
JALの鶴丸マークは日の丸を半分以上背負っている」。



1992年にソムリエの資格を取得後をきっかけに
その後、シニアソムリエ、米国ワイン教育者の資格、
英国WSET (Wine & Spirit Education Trust) 資格、Beer Judge,
利き酒師の資格も取得



空飛ぶソムリエの第一世代として
自分たちのアイデンティティを模索





1999年 JALのグループ会社が提携するワイン学校

「WSET」の立ち上げスタッフとして出向。

世界的なワイン教育組織と繋がりを持つ。

その過程で、出会った海外のワイン専門家たち
グローバルなワイン市場で活躍する彼らの「世界観」を知り
大きな刺激を受ける。



利き猪口の中には
日本が
つまっている！
日本酒は日本そ
のもの！

ワインを学んで気がついた
「日本酒の価値と可能性」

→ワインのわかる人には日本酒の価値もわかる！

→ワインの世界が実現している事は日本酒にも出来る！



日本の
オリジナルで
世界に
認められたい

一杯のワインで得られる共感の輪を
世界に向けて日本酒でも実現出来る！



日本酒 国内の現状

酒造会社の廃業が続く

(酒類製造免許数の推移) (酒類製成数量の推移単位:千KL)

昭和45(1970)年	3,533者	1,257
昭和55(1980)年	2,947者	1,193
昭和60(1985)年	2,586者	928
平成16(2004)年	1,973者	524
平成25(2013)年	1,576者	447



清酒需要減少の要因

1. 高齢化／人口減少⇒飲酒人口の減少

- ・飲酒主力層の減少、若者の酒離れ

2. 生活習慣・嗜好の変化

- ・生活スタイルの洋風化
- ・晩酌習慣の変化(一升瓶⇒缶や少量瓶での飲みきり)
- ・健康志向「濃厚」「高アルコール」⇒「淡麗」「低アルコール」

3. 代替品(ビール、ワイン、焼酎等)の台頭

4. 清酒イメージの低下

- ・おやじくさい、古くさい、悪酔いしそう。
- ・お洒落な洋酒のイメージとのギャップ。
- ・パック酒などの低価格品の増加。

5. 業界のマーケティング力不足



日本酒離れ

その他の要因や数字



- ◆ 国内酒類シェア内での減少。清酒**6.9%**
(焼酎**10.6%**、ビール**31.4%**、発泡酒**9.2%**、その他の醸造酒**9%**、リキュール**23.1%**、
ウィスキー**1.2%**、果実酒等**3.9%**、その他**4.6%**)
- ◆ 清酒製造業者の99%が中小企業で販売数量の半数以上は残り**1%**の大企業が産出しており企業間格差が大きい。
- ◆ 清酒の価格構造は原材料に占める米の割合が7割を占め原料米以外の部分でコスト削減余地は少ない。
- ◆ 杜氏など酒造りに関わる人々の高齢化が進み後継者難が顕著。
- ◆ 酒類卸売業者の減少。特約店制度が新規マーケット開拓を阻害。
- ◆ 酒類小売り分野での規制緩和で一般酒販店に代わり総合スーパーやコンビニが台頭。これらの価格決定権を持つ事業者がサプライチェーンを変えつつある。

数字で見る現実

日本酒輸出は全生産量の2%



日本酒の輸出額100億円、焼酎14億円
一方、フランスワインの輸出額約8,000億円
英国のスコッチウイスキー輸出額約5,000億円



(2014年度調べ)



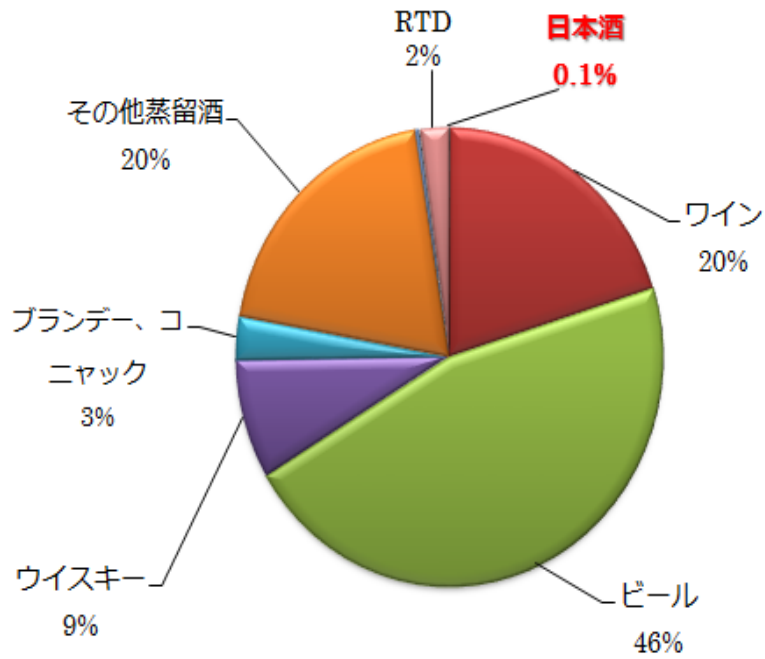
本格化していない日本酒輸出の直面する課題

- ◆ 海外販路の開拓には、
多くの酒造メーカーが小規模で独自の開拓は困難。
- ◆ ワインに比べて世界的なブランド力不在、
→海外への発信力が弱い。

米国で日本酒は人気と言われていますが...

主要輸出国でも酒類全体に占める日本酒の
販売シェアは極めて小さい！

米国における酒類販売額に占める日本酒の割合



※ RTD：ハイボール缶、チューハイ缶等

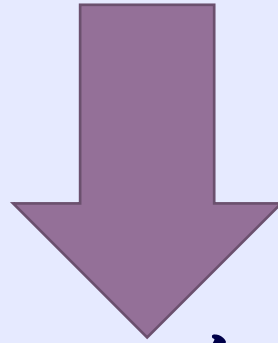
Source: Euromonitor International

日本酒の最も輸出されている米国ですが
(全世界への輸出額100億円、1位の米国は約33億円、
2位の韓国は約12億円)

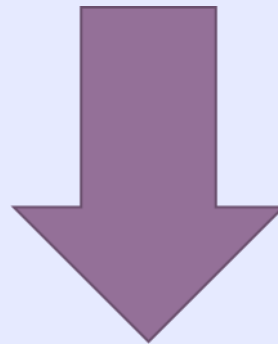
←米国内での販売シェアは
何と0.1%　これが、米国内での日本酒の認知度の
現実です。

JETROより

日本酒の海外進出での大きな問題点



日本酒の市場(マーケット)が小さすぎる



知られていない & 関係者が少ない

海外に広がる
ワインビジネスネットワークを
日本酒に活用出来れば？



⇒彼らが持つ人脈、商流、
そしてブランド構築へ



ワインの海外啓蒙に必須と言われる3活動



【1】Education (教育)

Step1 世界に通じる体系的な日本酒教育プログラムの作成。

Step2 日本酒の価値を消費者に伝える人材育成。

Step3 日本酒教育活動の多方面からの支援。



【2】Competition (コンクール)

信頼ある大会で品質を評価された銘柄を発信。



【3】Promotion (宣伝活動)

業界向けと消費者向けを絶え間なく続ける。



ワイン教育の本場に日本酒を紹介

2003年11月 有志蔵元による日本酒講座をオーガナイズ
WSET (Wine & Spirits Education Trust)
ロンドン本校で初めて実施。

有志蔵元 佐浦弘一氏 (浦霞 宮城県)

梶田隆一郎氏 (満寿泉 富山県)

車多一成氏 (天狗舞 石川県)

橋場友一氏 (いづみ橋 神奈川県)



この講座でサム・ハロップ氏は日本酒に衝撃を受け2004年来日。
2005年 最年少でIWCのCo-Chairmanに就任。
2006年 酒サムライに叙任 翌年IWC日本酒部門創設を実現。

酒サムライ活動(日本酒造青年協議会)

酒サムライ叙任式:

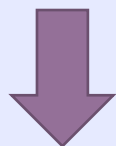
(国内外に日本酒応援団を増やす＝ワインのシュバリエを参考に)

日本酒普及に貢献する国内外の方々を
京都の下鴨神社で叙任

2006年～現在国内外48名



(門司ユネスコ代表部大使、門川京都市長、
菊乃井の村田吉弘氏ら)



第一回酒サムライ サム・ハロップ氏の尽力
インターナショナルワインチャレンジ(IWC)
にSake部門を創設(2007年～)





日本酒造青年協議会(日青協) と



「IWC」は パートナーの関係

【日青協の役割】

- *出品酒募集(出品要領の和訳、取りまとめ)
- *日本酒部門のカテゴリーなどのアドバイス
- *日本からの審査員派遣(毎年3~4名)
- *IWC Sake部門の結果は酒サムライHPでも発表。



【IWC側の配慮】

- *毎年審査後の会場でIWC主催の日本酒セミナー実施。

(注)他のワイン産出国には行わない諸々の配慮有り。

「参考まで」ワインの出品数**12,000**銘柄、日本酒 **725**銘柄

IWC2014 審査の様子 ロンドン

(左上) 審査会場

(右上) 各テーブルで審査されたものを再審査するSake議長(左)大橋健一氏(右)サイモン氏



(左下) 中央会の濱田理事がリーダーを務めた審査チーム

(中央下) 醸造協会の石川会長がリーダーを務めた審査チーム

(右下) パネルチェアマンのみでの結審は一人一票。



ワインの世界の檜舞台に日本酒を！ IWC Award Dinner in London!



今年のチャンピオンは
 岐阜県高山市の「熟成古酒 飛驒の華 酔翁」

海外

IWC

SAKE部門の活用

日本国内

海外販路開拓

国内における
日本酒への認識向上へ

未知の世界での通行証

身近な酒から誇れる酒へ

世界に巡る
ワインビジネスネット
ワークへの訴求



- ・爆発的な報道、
- ・外務省採用
- ・数々のプロモーション機会

→地域も含めての
ブランド構築の可能性。

IWC SAKE ジャッジという
世界に通用するSAKEスペシャリストの身分
を生み出した。

IWC2014トロフィー受賞酒



純米酒の部 トロフィー 磯自慢酒造(株) 磯自慢 特別純米 雄町 静岡県

純米吟醸酒・純米大吟醸酒の部

トロフィー 月山酒造(株) 銀嶺月山 純米大吟醸 限定醸造 山形県

福島トロフィー (資)廣木酒造本店 飛露喜 純米大吟醸 福島県

本醸造酒の部 トロフィー 妙高酒造(株) 本醸造 妙高山 新潟県

福岡トロフィー (株)喜多屋 本醸造 蒼田 福岡県

吟醸酒・大吟醸酒の部

トロフィー (株)小嶋総本店 東光 大吟醸 山田錦 山形県

秋田トロフィー (株) 木村酒造 大吟醸 福小町 秋田県

潟上トロフィー 小玉醸造(株) 太平山 大吟醸 寿保年 秋田県

天童トロフィー 出羽桜酒造(株) 出羽桜 雪漫々 山形県

酒田トロフィー 菊勇(株) 菊勇 大吟醸 秘伝 山形県

海南トロフィー 平和酒造(株) 紀土 大吟醸 和歌山県



古酒の部 トロフィー (株)平田酒造場 熟成古酒 飛騨の華 酔翁 岐阜県

秋田トロフィー 金紋秋田酒造(株) 山吹ゴールド 秋田県

広島トロフィー 榎酒造(株)「華鳩 貴醸酒8年貯蔵」広島県

スパークリングの部 トロフィー 天山酒造(株) 天山 純米吟醸 生 おりがらみ 佐賀県

宮城トロフィー 萩野酒造 萩の鶴 純米大吟醸 試験醸造酒 宮城県

オーディナリーの部 トロフィー (有)渡辺酒造店 上撰 蓬萊 岐阜県



2011年より 外務省の日本酒への取り組み

- ◆ IWC受賞酒の在外公館への発送
(**2011**年度は被災地の日本酒を中心に**17,000**本
発送、前年度は1年で**6,200**本)
- ◆ 在外公館長赴任前研修にて日本酒講習会開催。
(第一回**2011**年**1**月**24**日
⇒地方紙が**20**以上報道で大きな反響)
- ◆ 飯倉公館レセプションでの日本酒ブース設置
- ◆ 招へいの際の蔵元訪問
(米国日系人リーダー御一行など)
- ◆ 在外公館での試飲会開催
- ◆ 天皇誕生日レセプション(在外公館最重要行事)に
て原則日本酒で乾杯へ。



何と!?

2012年5月「國酒プロジェクト」誕生

前政権の国家戦略室

(古川元久大臣)が日本酒振興を
国策として全ての省庁が日本酒を
支援出来る環境となる!



そして!

安倍政権も成長戦略として

「日本産酒類の輸出振興」継続推進を決定!

そして次々と!

各省庁が施策開始!



日本酒をグローバル市場に広げる事での
大きな経済効果として

世界のワインツーリズム層を
酒蔵ツーリズムへ呼び込みましょう！

日本の
海外観光客は
仏の8分の1



観光庁
Japan Tourism Agency

☆観光庁に酒蔵ツーリズム推進協議会誕生☆

第一回会議2013-3-26は傍聴希望者が殺到！

第二回目会議も2013-12-8京都開催大成功！

☆官民協働の魅力的な観光地創り事業で
酒蔵ツーリズム地域を発信！

☆2013-10-1(日本酒の日)より、
主要空港で日本産酒類販売ブースを特設。
(英文の酒蔵ツーリズムパンフレット等用意)

日本酒は米を高付加価値化、
地域を発信出来る輸出品

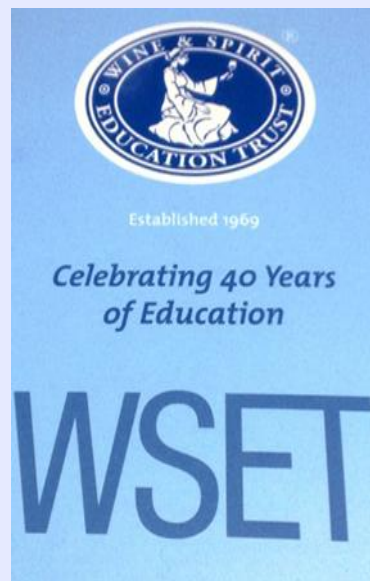
☆【世界発信】

Discovery Channelでグローバル市場で活躍する
ワインの専門家が日本酒文化を世界に紹介。



☆【世界規模の日本酒教育】

世界**62**ヶ国に展開するワイン教育機関の日本コースを支援。



IWC受賞を地域活性に活かす 「鍋島世界一」からの佐賀県の皆さん取り組み

◆ IWC2011チャンピオンサケ誕生から佐賀県は地域の意識統一を達成♪

古川知事から→

県

→佐賀県酒造組合→若手蔵元の会が祝賀会主催
→鹿島市役所→鹿島酒蔵ツーリズム協議会結成
→受賞翌年(2012.3.24-25)の6蔵合同の蔵開きに
3万人が鹿島市を来訪！

→観光庁「酒蔵ツーリズム推進協議会」でも事例として紹介！

→今年(2013.3.30.31)の蔵開きには5万人の来訪者を実現→通年観光へ。



日本酒を世界酒にするには
国の息の長い支援が望ましい。



日本酒の可能性への理解を
世の中や政府に説明し続ける事



日本酒に直接関わらない人にも
恩恵のある事例を実現していく事が不可欠。

平出淑恵「Sakeから観光立国」へのチャレンジ

2010.11月 JALを希望退職

♡ラストフライトには全国の蔵元さんから
たくさんのお花をいただきました♡
♡感謝・感激でした♡

2011.6月 :株式会社コーポ・サチ設立

《目指しているのは国内外での 日本酒のステイタス向上》

7月 :行政情報誌「時評」に「日本酒だより」連載開始
九州蔵元若手の会「九清会」総会で講演

10月 :長野の酒メッセで講演。

日本吟醸酒協会総会で講演。

11月 :小学館「サライ」とコラボ企画「世界最高峰の日本酒の会」実施

12月 :洋酒技術研究会例会でパネリスト、

豪州No.1 レストラン「Tetsuya's」Sake Director就任



2012. 1月 : 日本醸造協会誌に「Sakeから観光立国を夢見て」掲載
料理通信「Sake in the world」連載開始

2月 : PHPスペシャルに登場、ワイングラスで日本酒アワードに審査員



3月 : スマホのメールマガジン「酒ゼミ」配信開始、
リッツカールトン東京で本格フレンチと日本酒の会→Webにて配信

4月 : シンガポールマリナベイサンズで日本酒プロモーション

5月 : 国家戦略室から囲酒プロジェクトが発表。

IWC Sake審査会を日本で実施。

古川国家戦略大臣をIWC審査員と訪問。

日経CNBCに登場。

6月 : ぐるなびとのコラボ企画実施

「IWCTロフィー受賞酒を限定飲食店でご紹介」



7月:第2回 リッツカールトン東京でフレンチと日本酒の会。

経団連若手・中堅向け勉強会で講師。

8月:第1回大橋健一氏による海外戦略セミナー実施。

9月:福島県主催食のイベントにてトークショー。



10月:小学館「サライ」とコラボ企画

「世界最高峰の日本酒の会」実施

:佐賀県鹿島市産業活性化観光アドバイザー就任。

11月:シンガポールにて「Oishii Japan」で講演。

第2回大橋健一氏による海外戦略セミナー実施

12月:経産省・農水省主催、

農業フロンティア日本酒関係をサポート



2013. 1月:JC酒類部会総会で講演



2月:FM世田谷出演

:嵐山吉兆、星野リゾートコラボ企画「京都サロン」に協力

3月:第3回大橋健一氏による海外戦略セミナー実施

:山形県大黒屋共栄会通常総会で講演

:観光庁「酒蔵ツーリズム推進協議会」会議に参加。

4月:IWC2013日本酒審査関連で渡英



5月:知多半島地域ブランド化シンポジウムで講演。

サンケイビジネスアイで「Sakeから観光立国」連載開始。

はりま酒文化ツーリズムキーパーソン集会で基調講演。

農業情報総合研究所勉強会(千代田プラットフォーム)で講演。

6月:日本醸造協会主催「女性のための日本酒セミナー」で講演。



6月18日記者会見 SHERWOOD TAIPEIにて

乾杯グループで日本酒学校乾杯酒学苑開校(校長就任)

【協力企業】 名門酒会、City Super、開元、HanaBi、吉力酒蔵

【協力蔵元】 浦霞、櫻正宗、出羽桜、満寿泉、蓬萊泉、天狗舞、

満寿泉、梵、秋田清酒、郷乃誉、庭のうぐいす、いづみ橋

世界一親日の国で 理想的な日本酒の海外マーケットを育てたい♪

7月:外務省新任在外公館長赴任前研修で日本酒レクチャー
IWC2013授賞式出席のためロンドンへ
乾杯SAKE学苑第一回蔵元講座&Sake Dinner
デイスカバリーチャンネルのロケ同行で新潟、京都、神戸へ



8月： 乾杯**SAKE**学苑第二回蔵元講座&**Sake Dinner** 秋田清酒

香港の**FoodExpo2013**の**MAFF** イベントで
アジア人で初めてのマスターオブワインとなったリー女史起用。



酒蔵ツーリズムのモニターツアー地域を日本酒セミナーで紹介企画。

9月： 日比谷松本楼「仏料理と共に世界最高峰に選ばれた日本酒の夕べ」
乾杯**SAKE**学苑第三回蔵元講座&**Sake Dinner** 加藤吉平商店

9月28日 チケットぴあ「酔券」発売♪

«J2チームの地酒、特産付チケット♪»

10月1日より ホテルニューオータニ「SKY」にて

飛騨・高山地方、知多半島の酒蔵ツーリズムモニターツアーの地酒紹介。



「ビュー＆ダイニング ザ・スカイ」の正面にずらりと
並んだ飛騨・高山、知多半島の銘柄と安藤秀樹支配人



BS日テレ「深層ニュース」に出演♪

日本橋YUITOでIWC公認利き酒イベント開催

11月 阪急百貨店高級お歳暮カタログでIWC受賞酒紹介♪

飛騨・高山の酒蔵ツーリズム推進イベントで登壇



12月 観光庁 第二回酒蔵ツーリズム推進協議会会議に出席。

農水省 2015年ミラノ万博サポーター就任。



1月 農水省、海外伝道師育成事業の企画&コーディネート。

各地の蔵見学に加えて、東広島市の酒類総合研究所で初めての外国人ワイン専門家(WSET各国講師ら)への講習実現。



2月 総務省主催 第4回地域力創造セミナーでコーディネーターを務める。
秋田県由利地域観光振興会主催「酒蔵ツーリズムセミナー」にて講演。
中国経済産業局、JETRO岡山主催「日本酒を世界に！」にて講演。



3月 鹿島酒蔵ツーリズム®シンポジウムにて基調講演。

JETRO(日本貿易振興機構)、京都府主催「SAKEシンポジウム」で企画
及びコーディネート、モデレーターを務める。

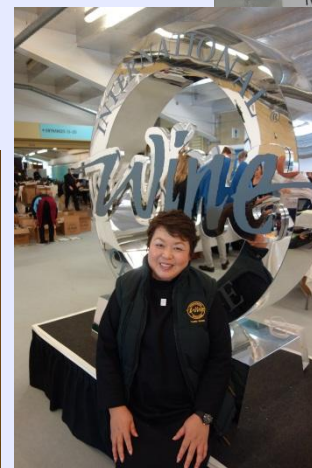


4月:阪急百貨店うめだ本店蔵元まつりに出演。

IWC2014 日本酒審査関連で渡英

5月:日本醸造協会経営セミナーで講演

日本生物工学懇話会で講演



6月:シンガポールのマリナ・ベイ・サンズで日本酒プロモーション

京都大学で日本観光振興協会の寄付講義で講師。

南部杜氏協会100周年記念講演

阪急百貨店お中元、青い高級品カタログ日本酒ページを監修。



7月:乾杯**SAKE**学苑蔵元レクチャー、**SAKE DINNER**で渡台。
第**19**回国際ビジネス女性会議で講師を務める。
IWC2014 Award Dinner(授賞式)出席で渡英。



8月:外務省在外公館長赴任前研修日本酒講座コーディネート。
IWC2014チャンピオンサケ受賞蔵元と岐阜県知事表敬訪問
平成**26**年度全国醤油工業協同組合連合会全国事務主任者連絡会議で講義



酒サムライ活動での感想

- ◆ 取り組むべきは人材育成
- ◆ コラボでの世界発信



- ◆ インバウンド政策を活用
海外観光客対応で国際化準備
そして内需も確保





東京オリンピックまでに
出来る事がたくさんある

ご清聴有難うございました。

